

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 6 No 6

59号

平成10年 6月 1日

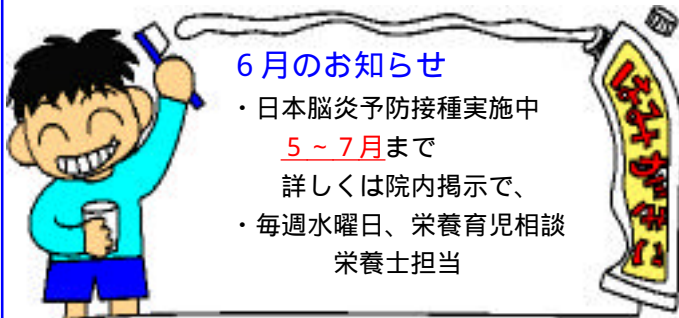
発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

外来で気付いたこと6を読んで

先月号に記事に関しての手紙を頂いたので、一部省略(勝手に)して紹介します。 泉区 佐藤 利子

58号の「外来で気付いたこと6」のお話、大変共感し、恐縮しております。私も短い期間でありましたが教育の仕事に携わり、伸びゆく子供たちへの接し方に考えることがたくさんありました。子どもを苗として例えるなら、周囲の大人は苗に適度な水、肥料(土)を与えてやるだけで、太陽に向かって自然と育っていくものだという話を聞いたことがあります。余分な手を加えると、弱々しく育ち、根を腐らせ、しまいには枯れさせてしまうこともあるのです。その草木となる苗同様、子供というものは、本来自らの力で成長する力を持っているものです。その力を私たち大人が身勝手に弱らせ、芽を摘んでいることはないでしょうか。

この世に性をもって1年半しか立っていない我が子を見ていて、感動することがたくさんあります。ぎこちない動作ではありますが、一人でスプーンやフォークを持って食事し、くつ下をはき、小さな足で一人でしっかり歩こうとしているではありませんか。大人の話もだいたい理解し、また数少ない言語で自分の気持ちを表現しようと必至に話しています。(思いが伝わらないと、目に涙を溜めて、悔しそうな顔さえるんですよ)常に一緒にいる者にとっては、時にはじれったさやイラだちを感じることもありますが、そこは忍耐の一言。主人と二人でぐっとこらえる毎日です。これを我が家では「見守っている」という意味で解釈しておりますので、決して放任のつもりはありません!。ただ親になってつくづく感じるのは、話が前に戻るのでその水加減が難しいということです。適度にといいことは、はっきり分量が決まっていないということ、つまり子ども一人ひとりによって親のかかわり方...、その子にあった接し方があるということです。水をたくさん必要とする子、支柱の必要な子もいるのです。



泉区 泰楽 栄里子

クリニックNEWSをいただく1週間程度前に「AERA」という雑誌で「いい母親の過干渉の罪」という記事を読んでいたこともあり、いろいろと子育てのことを考えていたときの先生のお話だったので、とても興味深く新聞を拝見いたしました。

私自身、専業主婦をしているので、子どもに目が届きすぎる事もあり、かなりべったりと毎日を過ごしています。とにかくよく毎日子どもと遊んでいます。生後1年が過ぎ、歩き始めたころ公園へ行くと、そこには様々な子供と母親がいました。子供にとっても厳しいお母さんや、だめよだめよと子供に言っているお母さんを見て、私は子供に甘すぎるのかしら...と不安になったのもこの頃でした。育児書などにも目を通していましたが、本当に理解できたのは最近のことのように思います。

- ・可愛がることと、甘やかすことは違うこと!
 - ・個性と、野生とは違うこと!
 - ・自由にさせることと、放任するのは違うこと!
- などなど...

分かり始めたころには、弘隆ももう2歳を過ぎていたので、この2年半は子供と一緒に、いろいろ学んできたように思います。

姉の子供はもう小学校の6年生と4年生ですが、姉から登校拒否の子供達のことや、最近では神戸の事件を真似てへんな手紙が机の中に入っていることもあると聞くと、この先この育て方でいいのかしらと不安なこともあります。

ただ今は、3才までのお母さんが子供の心の基地になる一番大切なときなので、第1に愛情をもって接し、親がこういう子に育てたいと自分の理想を押しつけるのではなく、弘隆が持っているよいところを伸ばしてあげたいと思っています。が...、私もすぐ感情的になりやすいし、弘隆も私によく似ていて感情の起伏が激しいので、2人でとても仲良く遊んでいたりと、意地っ張りになったり、泣いたり理想と現実のギャップはかなりあるんですが...

子育ては難しいことや不安なことも多くありますが、でもやっぱり子供がいる生活はとっても楽しく、感動することが多いです。



読者の広場

前回の投書にあった**げた箱**、玄関に準備しました。上手に使ってください。従来からの懸案だった**ネームプレート**やっと出来ました。作りはかなり凝っていると思います。じっくり見て、そして名前も覚えてください。また遊び心の一つとして『**シールクラブ**』なるものを設置しました。いわゆるプリクラを貼るスペースです。ご自慢のシールありましたら自由に貼ってください。



今回も、**たくさんの投書**を頂きました。まず青葉区の千紘ちゃんのお母さんから「今月からかわむらこどもクリニックお世話になっております。待ち時間になにげなく読んで“NEWS”とてもためになることばかり書かれてありましたので、‘創刊号から差し上げます’のお言葉に甘えてお願いしていただきました。（無料でいただいて申しわけない思いです）2日かかりで読みました。とても分かりやすい言葉で不安をとり除くように書かれてあります。“NEWS”をくださったスタッフの皆さんのお心遣いを無にしないよう何度も読み返しています。ポロポロにならないよう夫をお願いしてきれいにファイルしてもらおうと思っています。これからも予防接種や健診でお世話になります。また‘何号ください’とお願いすることになりますので、よろしくお願ひ致します。先生そしてスタッフの皆さんへ感謝の気持ちでいっぱいです。」。前にNEWS貰う気にならないと投書いただきましたが、実際にはちゃんともらっていく人もあり、安心しました。しっかり読んでもらえる人には、無料で差し上げること問題ありません。次に宮城野区の寺本さんから前号の編集後記にあった小生の首について投書をいただきました。「かわむら先生、首を痛められたそうですがいかがですか？。驚は少しお元気に見えました...。お大事になさってくださいね！。すずき みおちゃんのお母さんが3日に1回TELをしてきては‘川村せんせい。’と言っています。足がいたくても歯がいたくても、‘うー。川村せんせいにいたいー！、新聞ももう読めない。’と泣いているので、いつも受付で‘2枚ください’と言って（すみません！）、手紙と一緒に送っています。先生、中米さん、スタッフの方全員によるしく！とのことです。」。すずき みおちゃんは他県へ転居された患者さんです。転居した後もこうして頼られていることは、ありがたいことです。毎月新聞を2枚もらって、送ってあげてください。他にも欲しい人は、ご遠慮なく受付まで。



当院では喘息などの「ゼーゼー」する子に、吸入器を貸し出しています。泉区の遠藤さんから貸し出しのお礼に、吸入器を持っていくための袋をいただきました。皆さんも使うかもしれません。大切にしてください。泉区の菅井さんからは、吸入器のお礼の手紙とともに事務の宮腰（加藤）君に対してお祝いの言葉をいただいたのでご紹介します。「加藤さん ご結婚おめでとうございます！！。私たちの通院当初よりいられましたので淋しい気持ちがしますが、どうぞ新生活を、がんばって下さい。お幸せに！！」。他にも泉区の佐藤さんなどからも、いただきました。また、宮城野区の中村さんからおもちゃを頂きました。皆さん、ありがとうございました。

いい話を一つ。5月21日木曜日の診療時間後に、熱性けいれんを初めて起こしたお子さんがいました。初めてだったためお母さんの気が動転していました。思わず外に飛びだし、通り掛かりの車をつかまえて当院のそばまで乗せてきてもらいました。こんな良い話もあるのかと感心し、紹介するとともにこの場を借りてお礼したいと思います。お母さん共々ありがたく思っています。

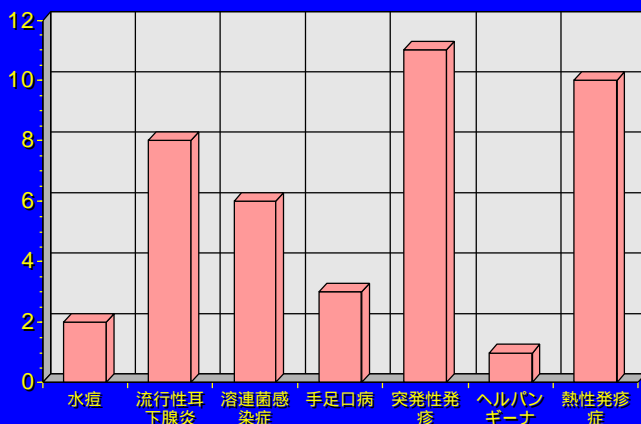
お母さんクラブのお誘い

5月21日に第1回のお母さんクラブが開催されました。参加者は33名で、『**こども**のしつけ』について、みんなでディスカッションしました。手をあげたことがあるか、後悔したか、手をあげることは必要か、甘やかすことと過保護等について、参加したお母さん達の本音を聞くことが出来ました。内容については、院内掲示の会報を見て下さい。

現在の開催は平日（木曜日）の午後ということで、働いているお母さん達は参加できません。しかし**会員になることは可能です**。当院の新聞と会報が郵送されます（これだけでも十分価値があると思います）。あとは参加できるときに参加してみてください。働いているお母さんを締め出すつもりは、全くありません。興味があれば、会員にだけでも！。

第2回は、6月18日（木） 福沢市民センター、テーマは『**夏に流行する病気と対処法**』です。

5月の感染症の集計



水痘は少なくなってきているようです。おたふくは多少の変化はありますが、延々と続いているという感じです。夏風邪の種類である手足口病が見られ始めました。この時期になるとウイルス感染で発疹がでる、ウイルス性発疹症（熱性発疹性疾患）も多く見られるようになります。また高熱を特徴とするヘルパンギーナも出始めました。

編集後記

お陰様でお母さんクラブ順調に
いっています。投書も多くありが
たいことですが、今月は載せきれ
ません。来月号に。今月号は、ほ
んとど患者さんに作ってもらった
様な感じです。ほんとぜいたくな
話です。ありがとうございます。

